

上田 勉

芸術も、人間の生活には無くてはならないもの “苦悩を突き抜けて歓喜へ”

3・11以後、被災地では多くの演奏家が演奏してくれました。多くの演奏家は被災地に来て、食料や住む家が第一の時に、演奏をすることが、果たして被災者を励ますことになるのだろうか、と悩みました。しかし、人間の生活は、衣食住だけではありません。芸術も人間の生活には、無くてはならないものなのです。

被災者は直接に演奏家の演奏を聴くことによって、人間は“苦悩を突き抜けて歓喜へ”（ベートーヴェンの第9交響曲「合唱付き」のシラーの詩）と言うことについて、実感することが出来ました。

檜葉中学校音楽教室—山形交響楽団の演奏を聴いて

6月27日、山形交響楽団の出前コンサートを聴くことが出来ました(勿論無料です)。曲目は、「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク (モーツァルト)」の第1楽章、「交響曲第5番「運命」(ベートーヴェン)」の第1楽章等です。指揮者の佐々木新平が、それぞれの曲や楽器について、分かりやすく説明してくれました。

今回の演奏では、演奏者達の被災者への思いと、被災者達の感謝の気持ちが一体となって、お互いに至福のひと時を共有することが出来ました。

聴く中学生は約20人、演奏する楽団員は約30人、こんな贅沢な演奏会は、めったにありません。正に、モーツァルトの時代までの、王侯貴族が聴く演奏会のようなようです。会費は勿論無料なので、私はパトロンのような気分になりました。

東北で初めてのプロのオーケストラ—山形交響楽団

山形交響楽団は東北で初めてのプロのオーケストラとして誕生しました。現在では、仙台フィルハーモニー交響楽団があります。毎月の定期演奏会の他に、スクールコンサート(出前コンサート)に力を入れていて、1年間で150回のコンサートを行っています(いつ練習をするのか)。これまでに実施したスクールコンサートは約5,000回、約300万人の子ども達がオーケストラの演奏を聴いて育って来ました。

昔、「ここに泉あり」(今井 正監督、岡田英二・岸恵子主演)という映画がありました。これは、群馬交響楽団をモデルにした映画です。このような地方のオーケストラは、財政的に厳しい中で、地方に音楽を普及するために、努力を続けて来ました。

東京のクラシック音楽の演奏会の料金は、5,000円ぐらいと値上がりしています。海外の演奏家の演奏会では、10,000円を超えます。庶民にとっては、中々コンサートに足を向けることができません。一方、地方のオーケストラは、3,000円ぐらいなので、本当に頭が下がります。

【原発被災地を巡るツアー】(いわき駅集合・解散、費用約1万円)

(第4回)9月9日(土)～10日(日) 1泊2日

参加希望者は 上田 まで メールにて

【指揮者 佐々木新平 & 山形交響楽団】



【山形交響楽団の演奏で、「檜葉中学校校歌」を歌う中学生】

